

やまぎと

会報3号 (95夏号)



金沢大学ワンダーフォーゲル部・OB会

OB会会長の挨拶

13期 大島 良治

OBの皆様、お元気でお過ごしでしょうか。最近の全国的な話題としてオウム真理教の非道の数々がテレビ等で取りあげられています。この北陸の小都市金沢もオウムの舞台として利用されていた事を皆様も御存じでしょう。御蔭であの頃の金沢駅、高速道路のインターでの警戒は大変なものでした。でも、一件落ち着いた様で安心しました。

話題を変えまして、本とし7月1日を期して「東海ワンゲル会」が結成されるという事で、金沢より役員3名が出席を予定しています。「〇〇支部と、沢山の支部が結成される前触れかもしれない」と先日の役員会で話題になりました。

大学を卒業すると、2通りの社会人が出来ます。自分の世界を狭くするひと（仕事関係の世界しか知らない）、そして広くする人（仕事関係以外の世界も大事にする人）です。

後者の人が一人でも多くなる様に、ワンゲルOB会が力をお貸し出来るとしたら、本当にすばらしい事です。でも、あまり急がず、着実に進みたいとも思っています。

本年9月、倉谷ベルクハイムで、月見の宴を予定しています。修復なった山小屋で、皆様とお会い出来ると思うと、本当に待ち遠しいです。

万難を排し、是非参加下さる様、お願い致します。

倉谷・月見の宴

返信率は 450通発送中68通、13%。毎度のうっかりに加え、年末・年始にぶつかっていたこと、年があけての阪神大震災、地下鉄サリン、歯止めのかかない円高など、もろもろのビッグニュースに日本が大揺れしていたことから、こんなものといった数字でした。中止を考えなくもありませんでしたが、何か起こるかかわからない世の中だから、かえってやれる時にはやっておこうと進行させています。ご返信いただけた方々、おかげ様で、試案を練る参考になりました。ありがとうございました。

以下のように、うちあわせておりますので、返信葉書にて、申し込みをお願いします。前回、日程が決まっておらず、またあれからの情勢で事情が変わった方もおいでることと存じます。今回は正式申し込みですので、前回返信された方も、再度ご返信をお願いします。

7月末が申し込み締切です。申し込まれた方にのみ、以後の連絡（月見の宴に関して）をとり行います。

☆日程 9月23日（祝日・土曜日）

午後1時 金大工学部前集合（小立野キャンパス）

受付、会費納入

1時半 地元OBの車に分乗、出発

4時 倉谷での行事開始

9月24日（日曜日）

午前10時 犀川ダムにて解散



☆会費 3000円 当日払い

夕食・翌朝食代他。 以上の中には現役の食事代を含みます。

酒、おつまみに関してはご芳志を全面的にあてにしております。よろしくお願いします。

（会費設定は、遠路のOBも参加しやすい額に…が基準。不足がでた場合は、OB会行事なので、OB会会計からの補助を考えています。）

☆装備 かつての小屋行きを思い出してご準備下さい。懐中電灯、武器、食器。

（使い捨て食器の用意も考えていますが、ゴミを出さないためには自前がベストのようです。）

シュラフについては準備が必要な方は返信葉書に明記して下さい。レンタル料実費負担で、手配の便をとります。（もちろん毛布でも可）

☆高三郎登山希望について…この際は是非ともという方は返信葉書にてお知らせ下さい。

その場合、朝食を含め、自分で山行の準備を整えられて下さい。会の方では、登山希望者でテントをまとめたり、帰る時のために同じ車になるように、またその車をダムの奥の方に駐車させる、また事前に、誰が希望しているのか相互にお知

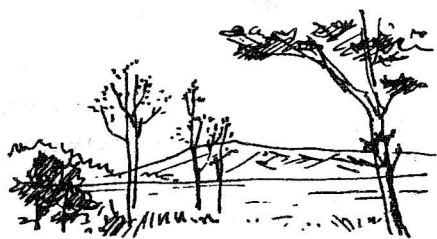
らせする…までの便宜をはかります。高三郎のコースについては、この会報中の椿川さんの記事中にあります。近年、登山道整備が進んでおらず、また9月下旬はブッシュが濃くなっている時期ですので、あまりお勧めできません。

☆追悼 昭和45年新トレで亡くなった15期桂さんの追悼も行います。「愁心」碑を補修・除幕(?)します。この補修構想は13期辰野さんが練り、その施行内容次第で、当日午前中、あるいは1週間前に入山も考えています。この事前準備については13期・15期の金沢勢が行います。

19期高桑さんの追悼については、同期の梶さんより「我々の期周辺での追悼はやっていくが、卒業してからの個人山行中の遭難であり、その点では一線を画しておいて欲しい」との申し出もあり、一応外します。倉谷への途中、彼の遭難碑がありますので、お参り下さい。

・その他 かなりの車がダムに停まることになるので、事前に犀川ダム管理事務所に連絡を入れます。

現役は月見の宴の数日前に入山し、宴終了後、一緒に下山することになっています。



OB会役員会の活動経過 とOB関係情報

(井は日時の確定していないもの)

12月24日 会報2号発送 (舟田 鳥越)

12月26日 OB会役員会通信N011発送

95年 (平成7年)

1月17日 未明、阪神大震災発生

2月11日 23期周辺OB、白馬でワングル会

2月22日 現役よりビーコンの要望あり

35期吉田さんより在庫なしの返事

2月25日 OB会役員会通信N012発送

3月24日 36期より卒業一言入手

4月17日 OB会役員会通信N013発送

4月30日 OB17期小島さんより東海ワングル会開催の打診。

5月9日 兵庫地区OBにお見舞いと原稿依頼

5月28日 OB3期高島さんの知人、毛勝山で遭難。救助隊要請。主将に連絡。

29日 前田顧問に連絡。36期OB石川さん達が特機。梶さんにも連絡。

30日 現地に人数が集まり、待機解除。
OB会役員会通信N014発送

31日 高島さん挨拶にみえる。

6月2日 遭難者寺崎さん奇跡の生還。

6月7日 OB会役員会開催 (大島 舟田 梶 椿川 鳥越 中川 石川 佐川)

6月15日 OB会役員会通信N015発送

井 名簿改訂・発送ラベル作成 (名倉)
払込状況集計、発送人ラベル作成
(鳥越)

返信葉書作成 (坂尻)

7月1日 東海ワングル会開催

井 印刷 (中川)

製本手配 (北川)

7月中旬 会報発送 (椿川 久富)

この会報は、OB役員の時間をやりくりして作成しています。編集できたものから、順次印刷担当の中川さんへ送り出している…といった事情から、項目の配置もバラバラ気味、目次は作れずといった有様です。もう少し欲を出すと、結果は部誌ベルクハイムの二の舞を踏むことになるであろうと、情報の新しいうちに送付することに意義を認めていますので、読み苦しい点はご了承下さい。また、写真の方はいずれ40周年にでも、きちんとした製版を経たページにまめとめたいと思っています。とりあえず雰囲気を楽しまれて下さい。



☆年会費について

後のページのとおり、対象OB（450名）の半数から納入いただきました。また、そのほとんどが5年分一括でご協力下さいました。親睦団体であり、何がやれるかわからない状態をお願いしている点からは、たいへんありがたく、励まされる数字だと思います。1年間の支出がこれまでのようなものとすれば、どうやら40周年まではもちこたえられそうですが、余裕もち、かつOB会の基盤を固めていくために、お忘れの方には、重ねて納入をお願いしたいと存じます。

今年東海ワングル会が発足しましたが、全国で活躍するワングルOBが、よりOB会に参加し易くなる形として、各地区での支部誕生を応援したいと考えています。活動費を援助し、支部会の報告をOB会報に載せることで、より親睦の目的が達成できるのではないのでしょうか。今回のように、役員の出席で金沢の風を感じていただけるものなら、交代で参加することも考えています。

やはり、先立つものはお金。余裕があれば、あれこれアイデアも出てきますが、金詰まりとなると、細々延命措置を図るのみとなってしまいます。会費の納入で、心強い支援をいただけますよう、重ねてお願いします。

☆返信葉書の切手について

今回も、切手を貼っていただく形式でお送りしています。前回の返信率が13%。これをOB会が負担する形で発送していた場合であれば、2万円近いお金が無駄に消えたことになります。すぐ、投函できる形であれば、多少の返信率アップが見込めるものの圧倒的に損失の方が大きいように思われます。（信用していないといえ、そうなるのですが…）

今後も、切手を貼って投函のご足労をお願いしたく存じます。（私共は一通一通をお人柄を偲びながら、拝見させていただいております…ご協力を。）

☆返信を私信に使う件について

わずかですが、せっかくの返信に、私信であると掲載を拒否するものが混じっていました。

この件については、OB会からの通信物は全体の親睦を図るために発送されており、1対1の通信のために労力を割いているものではありません。自分で切手を貼ったにしても、配慮していただきたいと思います。

知っている方の消息はもちろん楽しいし、年上のOBに対しては、それなりに学ぶべきものがあり、年下のOBに対してはそんな頃もあったなと思ったり、世代の違いを感じながらも同じ金大ワングルOBの歩みとして、通信はたいへん楽しいものです。

一つの波紋は、また次の波紋として広がり、交流のきっかけとなっていきます。1対1で他はシャットアウトの傾向が、今後広がるようであれば困りますので、あえて苦言とします。

OB会の発足にあたり、細かいルールを決めている訳ではなく、些細なことの中に認識の違いといったものも生じてきます。通信の扱いについては、上記のようにご理解いただき、年に2回の交流の場にご協力下さい。

遭難対策---

ビーコン及びアマ無線、社団に関して

2月中旬、春合宿CLの柴田さんから電話。「懇親会の時にはああ言ったのだけど、もし、もらえるんだったら、ビーコン（無線発信機）が欲しいと相談し合ったのですが…。」

彼等も正月4日に宝剣を目指し、別の登山口において雪崩遭難を耳にし、びびって引き返してきたとのこと。「1台が4万円する輸入商品で、これまで無しでやってきたと言え言えなくもないんですが、CLとSLとPLとさしあたり5台があれば安心できると…」ということでした。

他のOB会役員に知らせる前に、コージツ高尾店に勤める35期OB吉田さんに問い合わせしてみました。すると、

「在庫は一切無し。今シーズンはもう間に合わず、今注文してもらえれば来シーズンの冬には間に合わせられます。値引きについては就職1年目ですし、輸入商品なのでどうにもできません。」という返事でした。

そこで、この返事を早速柴田さんに伝え、トランシーバーについてはどうなっているのかを聞いてみました。すると

「学生課の物は性能が悪く、顔の見える距離でしか通話できない代物なので、今は借りていません。自分と、3回生の山本と1回生に一人アマ無線（つまり、無線免許と無線機）を持っているのがいて、今回はその3人を3パーティーに分散して対応します。来年は僕ら二人が抜けることになるんで、新3回生に対策を考えてもらうしかないですね。申し送りはしておきます。」との返事でした。

ここでアマ無線について簡単に紹介します。（事務局長は4級、その夫2級所有。無線局も開設しているので、多少知識有り。）

法規と無線工学の試験に合格した者は、無線従事者免許証の交付を受け、さらに申請して、

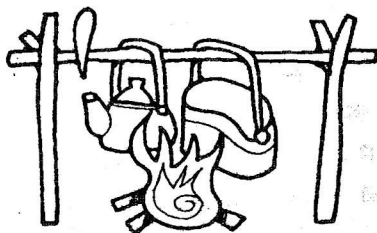
アマチュア局を開設します。アマチュア局というのはいわゆる1台の無線機に相当し、これに登録シールを貼ります。この無線機を他人が使用したり、また譲渡することはできません。

したがって、もしワンゲルの現役に無線機を寄付したとしても、備品として使い回すことは不可能です。

こんな場合のためには社団を開設する方法があります。社団が所有する無線機として登録すれば、社団のメンバーの中で無線機を使い回すことが可能になります。そのためには、目的・名称・事務所・資産・理事の任免及び社員の資格の得喪に関する事項を明示した定款を作成したり、代表者を選任して、社団局の免許を受ける必要があります。…という小難しそうですが、「社団」とは二人からを意味し、家族で無線機を共同使用している場合もこれにあたります。

この「社団」をワンゲルに適用するとすれば無線免許を持つOBが理事となり、現役には無線免許を取ってもらい社員として登録する。この社員登録を適宜更新するようにすれば、無線機を部が保有し、使い回すことができます。

現役には以上の情報（ビーコンの入手には時間がかかること、無線機所有には社団を作る方法があり、もしそれを希望するのであれば協力すること）を伝え、春山合宿中にでも話し合ってみよう依頼。一方OB会役員にも以上の経緯を役員会通信NO. 12の記事として送り、さしあたりの意見としてどう考えるか？要望されたビーコンについては、機種・台数・保管についてどう考えるか？を問い合わせしてみました。



梶「ビーコン・アマ無線の件については、社団のことがよくわからないものの、やはり多目的に使えるなど、アマ無線の方がいいように思います。なお、私も免許を取らねば…と前から思っており、御協力することに異存はありません」

椿川「ビーコンについて…

- ・機種は吉田さんに任せればよいのではないか。
- ・台数は予算との兼ね合いもありますが、現役のいう5台程度がよいのではないか。
- ・OB会保管では現役が借りにくくなってよくないと思う。保管の責任者を決めて、現役管理がよいと思う。

アマ無線について…

ビーコンと無線機を選択については、まず現役の意見を聞いたらいいのではないか。無線機の場合、OB会の社団はいろんな面で重荷にならないか。」

高木「社団設立が容易にできるのなら舟田さんの考えた案でいいと思います。ビーコンとの兼ね合いは、金銭的なものを考慮して台数などを決めればよいかと思います。ビーコンは高価な物だし、現役とのつながりという利点もあるので、OB会が保有するという形が良いのではないのでしょうか。貸し出し時に、いろいろ状況を聞くこともできるし…。ただ現実的に誰が保管するのか（その人の負担が心配）この点がクリアできれば良いのですが。」

坂尻「登山者本人が行方不明、あるいは意識不明などの場合、その所在を発信する電波で知らせるビーコンは確かに魅力的ですが、雪崩などに遭遇することなどを除いては、あまり意味のあるものと思えないし、全員に持たせるとしたら、何台になるか？冬・春合宿も少数のパーティーで動いているなら、まず数台の購入からとも考えられますが…。

それよりもアマ無線社団局の方がベターかと思います。無線の方が送れる情報が多く、持ち歩く際の負担より楽しみの方が多いように思うし、部員あるいはリーダーの要件とし

て、無線免許取得があって良い。そのことで、遭難対策を現役自身、身近に考えることにもなるのではないか。

高校の山岳部は一般に顧問が同行するパーティー行動を行うので、大会などでは、各顧問が保有するアマ無線が通信手段になっていました。」



4月7日柴田さんから電話あり。「今日、新3M（3年ミーティング）が開催されており、どうするのかについては、彼等の報告を待って下さい。春山は、アマ無線を持つ1年生が風邪で不参加となり、自分のと山本のと2台だけで連絡を行いました。今年から無線保持者がいなくなるが、どうするかは彼等の決めることで…。春山は事故がなくてホッとしました。いろいろ御心配をおかけしましたが、そういうことで、ありがとうございました。」

そこで、数日後、こちらから新主将に問い合わせてみました。

「ビーコン？ああ、あれはいらんだろうになりました。無線？あれもいらんだろうになりました。」

といった経過で、役員の意見をまとめる必要もなくなって、落着！

しかし、ここで事務局長は考えます。時間空間とも同じ山行をしていても、連れていってもらう立場と、連れていく立場では、大違いなのだ。他人の命を預かる怖さを知らねば、まだ一人前じゃないよ…と老婆心はつぶやきます。無線機が無用の長物ですんだのなら、それはそれで、たいへん結構な事なのであり、イコール無駄とはいえません。

今回の「相談してみるように」と言ったのは、3年生が、執行部になりたてホヤホヤの時期でした。もし、彼等が、雪山を前にして「やはり

何らかの無線機器があった方が…」という意見を持つようなら、また今回のようなことをくり返していくべきではない。1年限りの執行部ゆえに出てくるマイナス面といえる部分に対しては、OB会が助言し、より安全な山行に近づけるよう、遭難対策として考えていきたいと思っています。

(尚、事務局長は、昨夏、犀滝の帰りの谷合いで、仲間が携帯電話で金沢の女房に連絡している場面に遭遇しました。なるほど、これなら免許もいらん。話す相手の免許もいらん。いるのは維持のお金だけ…。価格破壊が進んでいけば案外、携帯電話の方が当たり前の時代になるのかも…とも思う次第です。)



電車から見た甲斐駒 21期 竹中 敏

9 4 冬号の返信

3月末までの返信分を期別に掲載します。期日が未決定ながら40名近い方から、参加のお返事をいただき、心強く試案にとり組むことができました。

(あれから、阪神大震災、地下鉄サリン事件などが起き、影響を受けられた方もおいでます。「月見の宴」につきましては、今回同封の返信葉書が正式申し込みとなります。)

○…参加

?…できれば参加したい

×…参加できそうにない



*顧問 前田 達男 ○

白山日帰り足慣らし、湯保→水晶→笠の3泊4日、剣道山行(遅まきながら現場確認)で夏はまあまあながら、その他の季節はほぼ全滅。冬合宿(荒島)も遅参・早帰り。

95年は教養・教育学部改組に連動して諸会議と「作文」に追われそうですが、山靴には淋しい思いをさせたくないと思っています。

*1期 仙田 厚太郎 ○

大変素晴らしいOB会報本当に有り難うございました。皆様のご苦勞に心から感謝申し上げます。

山は登るものでなくて、眺めるものになって久しくなりました。気持ちはあるのですが…。秋の会合楽しみにしたいと思っています。

会員各位の益々のご活躍を祈念しています。

*3期 田村 昭夫 ○

会報2号、一気に読ませていただきました。大島会長の挨拶、舟田女帝の文、達磨さんの「夫の遭難」etc…ワングル精神の不滅を垣間見る思いでした。

「月見の宴」には万難を排して参加します。

*3期 池本 和彦 ○?

毎日毎日仕事に追われ、ただただ白山を眺めているだけです。体重も増えてしまい山歩きも出来ないかもしれませんが、せめてベルクハイム周辺まで…。

*3期 岩井 修 ○

もう定年になりました。だから好きな事が出来ます。山に行く事も出来ます。ひたすらに歩く事の楽しさに又もどりたいと思います。

化石となったワンゲルの頃の山靴に油をつけました。

*5期 山田 允 ×

会報2号ありがとうございます。舟田事務局長のご苦勞に感謝します。当方4月には転勤(単身赴任)が予想されます。

*5期 龜田 武 ×

OB会役員の方々にはたいへんお手数をおかけしています。

*6期 大崎 進 ?

わずかの確率で参加できるかもしれません。御面倒ですが、日程が決定したら知らせて下さい。



*7期 村田 泰江 ○

この夏は19年ぶりに白山に登りました。あまり変わっていないのでほっとしました。その後、立山(浄土)、上高地は仲間が穂高に登るのを横目に、横尾まで、と久々に山に復帰した夏でした。往きはよいよい…帰宅後の筋肉痛のひどさと云ったら…。

*7期 四十万 利之 ×

拝復 寒さ厳しきおりから、皆様にはますますご健勝のほどお喜び申し上げます。秋の「月見の宴」のお誘いですが、夏期の夏休みであれば参加は出来ると思いますが、秋期は申し訳ありませんが可能性は少ないと考えております。私一人退きますが、皆さんによりしくお伝え下さい。

幹事の方にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ないのですがあしからずお許し下さい。

*8期 榊原 恒昭 ×

部室はどこですか、馬術部の隣、坂の途中でですか。金沢へは時折出張しますが、少しずつ変化し、38豪雪時と比し、町全体が明るくなったような気がします。しかし他から来た者が、知ってもらうのに時間が掛かり、その代わり、知ってもらったら徹底的に良くしてもらった学生時代の雰囲気は、今もそうであってほしいな、という思いがあります。(因みに小生愛知県出身)

会報2号は、厳しいサラリーマン生活をし30年近くになっている者にとって、学生時代の自由な、拘束なしの時がなつかしく、学生時代は良かったなと思われる一時を味わわせてもらいました。ありがとうございます。

*8期 篠島 益夫 ○

H6年12月より広島へ単身赴任です。金沢大学も金沢城内を去り、広島大学も東広島へほぼ移転完了です。時代の流れでしょう。

それだけに想い出のベルクハイムの修復は感慨ある事件でした。現役の皆さん、ご苦勞様でした。

*8期 穴田 昭一 ○?

懐かしのベルクハイムが「復活」したとなれば、建設時に肉体労働を提供した一人として、是非参加したい思いはあるのですが、いつになるでしょうか。決まったら連絡下さい。

やまざと2号ありがとう。なつかしく読ませてもらっております。

*8期 柳川 徹 ×

最近山歩きを(30年ぶりにて初心者です)始めました。丹沢系を中心に徘徊しています。四季折々の山を歩くにつけ、学生時代の、その季節の山々が頭の中を駆けめぐります。体力、技術力がつけば、昔訪問した山々へアタックしたいと思います。医王山、白山、立山等なつかしい山々へ是非機会があれば…。

*9期 平村 耕作 ○

OB会役員の皆様、本当にご苦勞様です。「やまざと」楽しく読ませて戴きました。BHには20年以上行っていません。山小屋建設・整備のことを楽しく思い出します。秋の「月見の宴」を楽しみにしています。

*9期 白井 勇 ○

・会報ご送付いただきありがとうございます。
無理をせずのんびりやって下さい。

・兵庫県南部地震。在住のOB諸兄の安否が気懸りですね。

・倉谷BH行き、楽しみにしています。

・H5. 10から(社)中部経済連合会へ出向しています。



*9期 清水 一 ×

2月中旬に、娘達とガーラ湯沢へ日帰りでスキーに行ってきました。当日は雪で、山々を見ることはできませんでしたが、ワンゲルの合宿で学んだスキー術を思い出しながらスキーを楽しんできました。

*10期 山知 亮 ○

山行は出来ませんが、BHには是非行きたいと思います。

*11期 小山 清 ○

会報やまざと2号に感動しました。よくぞこれだけの記事を集め、編集し、印刷されたと！1121矢崎氏の住所変更をお願いします。

*11期 森川 功 ×

11期窪田氏の住所を連絡します。

OB会報2号ありがとう。でも、これを長く続けていくなら、OB通信の葉書は書いてすぐ出せるような配慮をしてほしいですね。(これも会費を払わないOBが多いからかな?)

*11期 矢崎 利哉 ×

犀川のほとり(室生犀屋の碑近く)に下宿していた者には未だ倉谷部落の面影があった、上流のベルクハイムには一段の思い出深いものがあります。春・夏・秋・冬、皆の顔、カメムシ、マムシ。現役ガンバレ！！

*13期 柴田 茂樹・訓子 ○

「やまざと」を読んでいると年賀状がしたためられず、年賀状をものしていると「やまざと」が読めません。困ったことです。

*13期 辰野 隆義 ○

13期生は去年より、秋に一泊の小旅行をすることになり、去年は10人、今年は9人の出席者で旧交を温めています。ほとんどが石川県と愛知県に集中しているため、このような行事が可能なのだと思います。

また、石川県在住者は毎年1月3日、夫婦連れて新年会を行っています。(13期近況報告)

OB会役員並びに事務局の方々御苦勞様です。

*13期 神林 博 ?

もし、日本にいたら参加します。

山小屋には13期我々にとって不幸な出来事が心に残っています。是非風化させないで教訓にしてほしいと願います。

*13期 吉田 穂積 ○

*14期 伊藤 直和 ×

スキーがしたくて、毎年雪山を眺め、計画を立て、それをつぶしています。

*15期 松林 知一 ○

子供たちも連れて行ってやれるといいのですが。なんとかか参加したいと思います。その時はどうぞよろしく。

「やまざと」をありがとうございます。近くにいなながら何のお役にも立たず、申し訳なく思

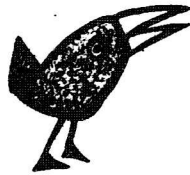
っています。事務局長のゲキ文に啓発され、来年からできればワンデリング（私の場合は主にロードですか）を再開したいと思っていますが…。

*15期 祖父江 直久 ×

*15期 宇野 潔 17期 宇野 和子 ×

「月々に神戸の月も良いけれど
倉谷の月は我青春の月」

- ・参加したいが、きっと行けないでしょう。
- ・オロロとカメと留年（私はしていない）とベルクハイムに想い出多し。
- ・竹内君は行くのかなあー。
- ・亡き友桂君に合掌。



*15期 上馬 康生 ○

1992年6月 奥池一奈良岳（大笠山往復）→高三郎山→倉谷。1994年5月犀川ダムから新道→高三郎→旧道で歩いてきました。新道の上部及び高三郎ー見越山間はブッシュがひどく、苦勞しました。

BHで懐かしい顔に会えることを楽しみにしています。

*15期 佐野 哲雄 ○

（白紙。編者ひとこと…昔から「沈黙は金メッキ」を信条とするお方でした。）

*15期 横井 昭次 ×

倉谷に入って、ベルクハイムに1週間でも、1か月でも、こもっていたいと思う毎日です。水の音と、鳥の鳴き声と、山の空気があれば、それで全てが充足した感のあるーそんな時を過ごすことのできた場所ですネ。

だんだん思い出の中に閉じこめてしまうようで寂しいのですが、参加できそうにありません。有意義で、新たな思い出になりそうな企画を考えて下さった幹事の皆様に感謝しつつ、お詫び申しあげます。

*15期 舟田 節子 ○

「私、もう一晩泊まっていくから」と言ったら、祖父江さんも塚本さんもびっくりしてしまった。でも彼等は私の意志を尊重し、（後できくと彼氏が来るんだ…）と思ったのかどうか、BHを去っていった。それは3年生になったばかりの春の小屋開きのこと。女子用の春山準合宿がボツになり、もう何も考えたくなくて、先輩のかつての「山小屋に一人で泊ってみろ」のその言葉だけに専心し、実行したのだった。努力も、能力も「オンナ」というだけで差別を受ける、その理不尽さにガマンがならなかった。

でもあの一晩、怖かったのはヘビでもクマでもなかった。誰か得体の知れない人間が現れるかもしれないことの方がずっと怖かった。（しかし何ですね。襲ってほしい頃には、襲ってもらえなくなるんですよ…ホント、ワンゲルに関わると、言うことに品がなくなります。）

翌朝、通り抜けた廃屋の中で釣人がガサッと動いた時には、ギネスものに跳び上がってしまった。必死にあとから仲間が来るような素振りをして、来る時よりもっとみじめな思いを抱えて帰った私…あれが一番の小屋の思い出。

あの頃、「留年したぁ!」「失恋したぁ!」と言っては、BHに籠もった部員がよくいたっけ。楽しい時だけでなく、辛い時もBHは迎えてくれたものでした。

*16期 北川 隆次 ○

*18期 椿川 利弘 ○

紅葉の中での大宴会楽しみにしています。

*18期 田辺 隆一 ×

海外遠征に精出しています。夏期には、立山剣沢の診療所に毎週詰めています。

*18期 森 博彦 ×

*18期 坂井 尚登・尚美 ?

いろいろお世話ありがとうございます。会報を拝見して、幹事の方々の御苦勞を改めて感じました。何もお手伝いできずに申し訳ないと思うのですが、ベルクハイムの修復も、会報も、本当に楽しみに思います。

皆様が、形をかえて山と関わりながら御活躍の様子、まだまだパワーを感じ、まだ遅くないかなとも、改めて感じました。

*18期 藤森 忠夫 ○

9月下旬は小学校の運動会がありますが、都合がつけば参加したいと思っています。役員の皆様にはご苦勞をかけますが、よろしくお願いします。

先月の阪神大震災、被災されたOBの方がなかったか、心配しています。

会費納入遅れましたが、本日振込みます。

*21期 加藤 万里子 ×

*21期 岩田 次男 ?

OB会役員の皆さん、いつも御苦勞様です。「やまざと」を送っていただき、ありがとうございます。ベルクハイム修復完成おめでとうございます。昔ベルクハイムを利用したことを思い出すと、あの頃がなつかしく感じます。

小生は最近、愛知県内の低山をよく歩いて自然に親しんでおります。

日程がはっきりすれば参加できるかもしれません。連絡して下さい。

*21期 竹中 敏 ×

新トレの夜、ベルクハイムのまわりのテントの中で聞いた、トラツグミや、ホトトギスや、ヨタカの大合唱の音が、忘れられません。今でもあの夏鳥たちは、倉谷にやってくるのでしょうか。ぼくたちは、遠くから思い出だけです。

*21期 滝本 民夫 ×

*22期 安達 敦子 ×

*22期 森 恵利子 ○

卒業してから高三郎には3度出かけています。倉谷を通る度に「ここに私達のベルクハイムがあるよ。」が私の決まり文句でした。なつかしい時間に出会えるのを楽しみにしています。

*22期 黒崎 敏男 ×

事務局の方々にはお手数をおかけするのみでなかなか協力できず、申し訳なく思っています。子供も大きくなり暮らしも落ち着いてきたので、簡単なハイキング程度から活動を再開したいなと思うこの頃です。

*23期 辻 政孝 ×

*23期 興井 隆 ?

どちらとも今はわかりませんが…。5年程前、イワナ釣りでBHを訪ねましたが、とにかくひどかった…。期待しています。

*23期 広岡 謙一 ○?

来年はたぶん3年生の担任になると思うので、その時の状況によって参加、不参加が決まると思いますが、行きたいです。

*23期 石地 隆司 ?

*24期 坪井 陽典 ×

*24期 南 英治 ×

世話役ご苦勞様です。たいへん感謝しています。遅れてました(すっかり忘れていた)会費を、近日中に必ず払い込みます。許して下さい。



*24期 黒岩 達夫 ○

鳥越さん、OB会活動に骨を折られていたら、本当に骨を折ってしまったそうで、心よりお見舞い申し上げます。(もう完治したのでしょうか)

さて私こと昨年めでたく長男(岳史)が誕生し、そのうえ転勤で8月に故郷長野に運良く戻ることが出来ました。金沢も近くなりましたので、秋の山行には参加したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

OB会役員幹事の活動に敬意を表するとともに、微力ながら支援を惜しまぬ所存です。

*25期 難波 利行 26期 難波 清芽 ×

・配送物はいつもありがたく読ませて頂いております。うちでは金沢に足を向けて寝ていません。

・昨年('94)5月、残雪の奈良岳へ登りました。懐深い、手つかずのブナ林は金沢の誇りであり、日本の宝です。離れてなおいっそうその素晴らしさには感動。

・昨年('94)10月、秋の光岳へ行きました。長年のあこがれであった南アの最深部も、今では天竜川側、遠山川から入れる1泊2日の手軽な山になってしまいました。日本庭園のような、ほのぼのした実に風情のある山でした。

*25期 石本 一鶴 ?

スリランカは中止になり、2-7月は中米のエルサルバドルへ行くことになりそうです。私の仕事は、ODAをインフラストラクチャという形に変えることです。外国人との付き合いはおもしろいですよ。ちなみにエルサルのはネパールかな。南アフリカのジンバブエかも…。こんな調子です。

*25期 荒戸 美雅 ×

山の天気のように、僕達をとりまいて環境はめまぐるしく動き、あふれる情報の処理にウロウロする毎日です。

広告業界に身をおいたサガかもしれませんが、毎日歩きながら考え続けています。もちろん背中には、妻・子供の入ったザックをしょっています。

*26期 益川 珠美代 ×

住所を変更しました。('94.11)

会報2号は転送され、手元に(たしかに)いただきました。

*26期 赤堀 鉦仁 ×

ベルクハイムと言えば、カメ虫とオロロと、すずめ蜂にさされたヤツのことを思い出しました。

*27期 二木 博子 ×

1994年11月23日に結婚の予定です。披露宴には同期の外村さん塚原さんも来ます。残念ながら、相手は山登りをあまり好きな人ではないので、しばらく山はおあずけになりそうです。

*29期 森 宏人 ○

昨年11月、転勤で福岡より大阪へ出てまいりました。今年は中央の山へどしどし登りに行く予定です。お近くの方、連絡下さい。

幹事ご苦労様です。

*29期 堀川 隆司 ×

*29期 小杉 昭夫 ×

返事が遅くなりすみませんでした。勤務先の訂正をお願いします。

*29期 高木 美保 北村 智明 ○

できるだけ参加したいと思っています。よろしくお願いします。

*30期 野田 和裕 ○

楽しみにしています。



*34期 奥 民昭

○

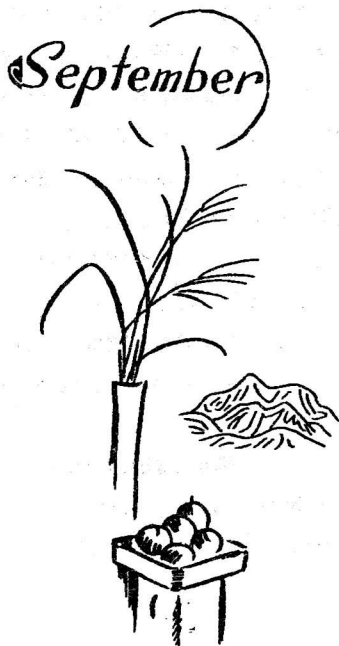
去年の夏は仕事で忙しく、休日もほとんどない状況だったので、山は1回しか行っていませんが、今年はできる限り行きたいと思っています。就職して最近思うのは、山とか自然のありがたさです。毎日コンクリートの壁の中でディスプレイに向かって仕事をしていると、家の周りの田んぼ道を歩く事にさえ、心が安らぐ今日この頃です。

*34期 松浦 真也

○

連絡が遅くなってまことに申し訳ございません。上記の「月見の宴」についてですが、今のところ参加したいと思っております。しかし、ご存じのように、阪神大震災の影響があり、今年の4月から明石市役所に就職するものですから、その頃休みがとれるかどうか、今はまだわかりません。現に今もアルバイトでかきだされており、避難所に食事を配る仕事をしております。(15期の金井先輩ともお会いしました)

そういうことですので、今はとりあえず、参加にしておいて下さい。お願いします。



卒業一言

OB会の立場からは、「入会一言」といった所ですが、部誌が発刊されていないことから、従来どおりの「卒業一言」でお願いしました。35周年、山小屋の修復と、実によく活動した36期連も、ついに卒業、OBに昇格しました。

*石川 明弘 理学部大学院

金沢大学入学から4年がたち、私の場合は同大学院へ進学ということで、あと2年居座ることになります。気がつけば23歳、外面だけはいいおやじ。しかし内面はまだまだガキでアホなことばかりやっています。学生時代はワンゲルと学部2本柱でどちらも居心地はよく、山へ登りつつ物理を楽しみながら、やはりアホなことをやりつつ残りの2年の学生生活を送っていたと思います。

ワンゲルへ入部した時の頃の写真を今見てみると、少し顔のつくりも爺臭くなったかなと思い、何も考えずただ先輩についていった頃の自分を思い返せます。昔と今では雰囲気が違うという人がいるけれど、本当にそうなのかなと私は思います。

これまでの山行で一番印象に残っているのは白馬→親不知で、海で泳いだ時のあの感動は結構ビリビリ痺れたのを思い出します。

残りの2年でこれを越えるPWを現役の皆さんに出してもらって、体力の続く限りついて行き(体力がなくなっても歩かなあかんちゅーに!)再びビリビリ痺れてみたいです。

ではまた部室でお会いしましょう。

*金井 一人 工学部大学院

ワンゲルに入部して4年が過ぎた。この大学の4年間はワンゲルを中心にした生活を送ったように感じる。

今でこそ、ワンゲルにどっぷりはまっけているが、こんな自分でも、これまで辛くて部を辞めようと思ったことが何度かあった。し

かし、その度ごとに「つらい時こそ、自分から逃げるのではなく、それを乗り越えることが重要だ」と自分に言い聞かせては、辛い時を乗り越えてきた。

これから先、自分の人生に何が起こるかわからないが、ワンゲルを通して得た経験がきっと役に立つ時が来ると思う。

4年間お世話になった皆さん。どうもありがとうございました。

*新倉 崇之 通商産業省

就職の面接で「大学時代何をしてきたか」と聞かれ、待ってましたとばかりワンゲルのことを延々話したら、「それ以外は?」と聞かれ、少し返答に困ったことがある。

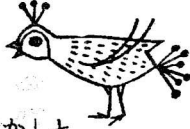
事実、ワンゲルの占めるウェイトは大きかった。ワンゲルから多くのことを学んだが、山の生活や技術以外のこともたくさん教わった。特に自分の場合、多くの失敗を重ねたが、それを指摘してくれる人や、グチを聞いてくれる人が存在したことが、自分にとって大きくプラスに働いていたと思う。卒業するにあたって、そのような仲間に出会えたことを、改めて素晴らしいと思うと同時に、「有り難う」と感謝したい。

これから社会に出ていく自分にとって、重要なのは、ワンゲルで得たことを日々の仕事や生活にどう生かすかであり、その点では、まだ始まったばかりなのだという事を肝に銘じて、私の卒業に際しての決意としたい。

*立川 健吾 三菱重工業

金沢へ来て4年が経ち、再び違った街へ行くことになりました。金大、そして我らがワンゲルも卒業します。今更ながら「光陰矢の如し」というお馴染みの言葉が脳裏をよぎります。

僕にとってワンゲルは全く新しい視野を提供してくれた存在でした。1年生の時に初めて樹林限界を越え、普段自分が当たり前のように暮らしている世界とは全く異なった空間が存在することを思い知らされた時のことは、未だに強く印象に残っています。



時には、気力・体力の限界を越えるような山行もありました。しかし、楽しかった山行と共に、そのような辛い山行も、想い出となってしまえば、貴重な自分の財産となってしまうのが不思議です。(つくづく人間の心というのは、いい加減、かつ便利である。)

先輩、後輩、そして同期の仲間達。皆さん今までどうもありがとうございました。これからは社会人としての修行をしながら、さらに自分の視野を広げるための旅をしていきたいと思えます。

みなさん、今までどうもありがとうございました。また山で会いましょう。

*朝日 秀樹 医学部在学中

「どうしてワンゲルに入ったのか」と聞かれたら、私は迷わず答えるだろう。「山が好きだったからだ」と。そんな答えしか僕には思いつかない。

実際、山に登って何が一番心に残っているかと考えてみると、雲海に沈む夕日を眺めた時や、薄暗い木立の中を木々の間から差し込んでくる光を見上げながら歩いた時、白い静寂が包む森の中を、雪を踏みしめつつ歩いた時などである。こうした自然の中に自分が置かれることで僕は、言葉には言い様のない感動を覚えた。自分がこの世界の中では、ほんとに小さな存在にしかすぎない事を知った。小さいながらも、自分はこの両足を大地に据えて存在し、見、考え、行動し、すべてを受け入れることができると感じた。

少々大袈裟な表現だったかもしれないが、山を通して僕が得ることができた物は、それほど今の自分に大きく影響している。これからも僕は山に登っていきたい。

最後に、けっして模範的な部員ではなかった自分に、4年間付き合ってくれたすべてのワンゲルの人に感謝したい。本当に4年間ありがとうございました。

*田中 充 工学部在学中

ワングルの現役生活は4年と短い。

体力にまかせて登り、食うことを最大の楽しみとし、酒を飲み、屁をこいて寝るだけの1回生。一通りの山行を経験し、もっと体力のいる山、難しい山へといちびっていた2回生。付いて行く山行と、連れて行く山行のギャップに苦しんだ3回生。審議の本当の大変さを知ったのと、自分の山行とカヌーを楽しめた4回生。であった。

ワングルのOB生活は長い。他のスポーツと比べ、登山は長く現役でいられるし、年相応の楽しみ方もできそう。5年に一度だけの記念山行だけではさみしいので、OB活動が活発になり、PWみたいな山行をOB間でしてみたい。

僕は追コンでワングラー部を卒業させられたが、学校は工学部を卒業させてくれなかった。だからO氏の様に、閣部員として、あと一年活躍するつもりです。



*沢田 哲之 工学部在学中

ワングラーには、2種類の人々がいる。＜山をこよなく愛する＞人々と、＜そうでない＞人々だ。話の都合上、今後前者をA群、後者をB群とすることにしよう。別に2種類に分けても、互いに対立しているわけではない。あくまで、分類上の話だ。

ただ、やはりこの分類の定義づけでは、多少語弊があるので、B群は改めて、＜山はどちらかというが好きだが、つらかったり、寒かったり、汚かったり、そんなのばっかりの山はやだし、ましてこよなくとか愛するなんて言葉はねー＞の人々ということにしよう。

私はどっちかという、B群であると考え。「どっちかという」の下に点々をつけておかないと、先程の新しい定義づけと全く同じ気持ちと思われてしまいかねない。あくまで、そういった分類上にくる人々の意見の集約を自分なりに考えてみた結果（長いな…）である。

別に、今からワングルの批判をしようとか、ワングルとは…といった、小難しい話を論じようというわけではない。

そのB群出身(?)という立場から、卒業してみても思う、わたしのワングル観を今から述べてみようと思うのである（えらく、ここまで長かったナア。）

つづく

*樫村 美智子 文学部大学院

運動オンチな上、全身の筋肉含有量が限りなく0に近い私にとって、山登りというのは全く未知の世界でした。

秋に入部して初めて参加した冬合宿は雪がありませんでした。その頃はまだ硬派な雰囲気があったよっていただけか、途中入部だったからか、女一人だったからか、春になるまではほとんどの人と挨拶以上の会話をしたこともありませんでした。今思うとよくぞ辞めずにいたなあと我ながら感心するぐらいです。

めでたく、いつのまにかヒマさえあればPWに参加するようになり、ない体力はまわりの皆さんに甘やかされることで補い、楽しいワングル生活を送れました。甘やかして下さったセンパイ方、それを後悔したであろう同期の皆さん、それで迷惑を受けたであろう後輩の皆さん、どうもいろいろありがとうございました。つくづく幸せ者だと思っています。ということで、これからもお願いします。

*清水 勇一 新日本法規出版

ワングル3年間（4年間）の活動は私にとって非常に意義深いものでした。

体力、忍耐力、精神力がついたのはもちろん、そのほかに交流の場として先輩、後輩、そして同級生と良き人間関係をつくり上げることができたと思います。

今後私は社会という荒波の中へと立ち向かっていくわけですが、このような経験は必ず役に立つと思います。

皆さん、長い間ありがとうございました。